

テーマ：北海道の文化遺産等（実践校）

根室管内 別海町立野付小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、教科等横断的に野付地区の漁業や酪農等について学ぶとともに、地域の方へのインタビュー活動等を通して、地域の特色や自分たちの生活との関わりについて探究的に学ぶとともに、姉妹都市の大阪府枚方市の学校と遠隔合同授業を実施し、発表し合いました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

野付地区の特色や自分たちとの関わりについて調べる活動や他の地域の児童に発表する活動を通して、自然・漁業・酪農について理解するとともに、自分たちの町との違いやふるさとに対するこれからの願いを具体的に考え、関心をもって発言したり行動したりすることができるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

大阪府枚方市の学校と遠隔合同授業をするにあたり、学習の目的、方法、見通しを共有しました。枚方市を地図で調べ、別海町との違いから、社会科や総合的な学習の時間で学んだ「別海町と野付地区」「漁業」「酪農」について伝えたいと意見が上がり、3つのテーマから児童が選択し、課題を設定しました。

(2) 情報の収集

副読本等の資料や酪農学習、野付半島ネイチャーセンター、漁港見学などの体験活動を通して情報を収集しました。また、町の魅力について町長や教育長に聞いたり、児童の選んだテーマに応じて家庭から関係する画像をもらったりするなど、児童一人一人が必要な情報を収集しました。



【野付漁港見学の様子】

(3) 整理・分析

調べて分かったことの中から相手意識をもって、特に伝えたいことを中心に、各自でパワーポイントにまとめました。グループに分かれて必要な情報を整理・分析し、資料を作成することにより、各テーマの理解を深めました。



【遠隔合同授業の様子】

(4) まとめ・表現

国語科で学習したことをもとに、各自が作成したパワーポイントをグループで1つにまとめ、どのように伝えるか構成や表現の仕方を考え、グループのプレゼンテーション発表資料を作成しました。枚方市の学校と遠隔合同授業を行い、発表の交流をしました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・1人1台端末を活用し児童が自分のペースで学ぶとともに、必要に応じてグループで相談しながら進めることができるよう、資料を作成する際、探究的な学習の流れを提示し学習を進めました。
- ・多様な他者と協働し、多面的・多角的に俯瞰して捉えたり考えたりできるよう、個人で取り組んでいる際の進捗の確認や、集めた情報・表現方法などをグループで交流、共有できるようにしました。

実践の振り返り

- ・遠隔合同授業に向けて、児童が相談しながら資料を作成するなど協働的に学んだことにより、ふるさとの魅力を再発見し、誇りをもつことができました。
- ・地域人材を活用した単元の指導計画を立案し、保護者や地域の方の協力を得ながら実践することにより、児童の学習意欲が向上し、ふるさとへの愛着を高めることが期待できます。